

学校安全総合支援事業報告書【防災に関すること】

学校名：熊本県立水俣高等学校

住所：熊本県水俣市洗切町 1 1 - 1

電話：0 9 6 6 - 6 3 - 1 2 8 5

I 学校の基本情報

○生徒数：442人（18学級）

○職員数：72人

○熊本地震時の状況

施設は体育館渡り廊下への接続部分に一部損壊が発生。4日間の休校を入れ、生徒の安否確認を行った。

II 取組の概要

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

防災教育については、カリキュラム・マネジメントの視点を持ち、教科横断的な防災教育の推進について、学校防災教育指導の手引を参考に、他教科との連携を図りながら取り組んだ。

実施時期	具体的な内容
8月	・防災教育に関する研修会への参加（芦北高校） ・防災教育公開授業に向けた学校安全アドバイザーとの打ち合わせ会
9月	・水俣市合同防災訓練（水俣高校）
10月	・防災教育公開授業
11月	・校内研修（防災教育について）
1月	・生徒向け防災ニュースの発行

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア 水俣市と合同の総合防災訓練を実施した。防災訓練では、大雨洪水による浸水を想定した避難訓練を行った。訓練の後、防災体験（避難所開設・土嚢積み・非常食の試食等）及び防災講話等を行った。訓練後は、反省会を開き、成果

と課題の把握を行った。

イ 先進地視察研修で学んだ教職員による機能訓練を参考に防災訓練を行った。

実施時期	具体的な内容
9月	・水俣市合同防災訓練への参加（水俣高校）
11月	・緊急地震速報受信システムを活用した実践的な避難訓練（シェークアウト訓練） ・校内研修（防災管理について）

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

防災主任研修及び先進地視察研修において、防災教育や防災管理の手法・実践に触れ、学校安全計画や各種学校安全に関する計画を見直すことができた。

また、そのことについて、校内研修において職員に報告するとともに、本校教職員の学校防災に関する資質・能力及び校内の連絡体制の構築を図った。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

本事業に係る学校防災に関する取組の成果と課題及び学校安全アドバイザーからの指導助言を危機管理マニュアル及び学校安全計画の見直しに反映させることができた。

今後は、職員への周知を図るとともに、学校防災に関する取組や実践を反映させたPDCAサイクルを確立させる。

(5) その他

自然災害発生時における学校施設の避難所利用等に関する協定が、令和元年8月に水俣市と締結した。

Ⅲ 取組の成果と課題

1 安全教育手法の開発・普及

(1) 防災教育の実施

ア 成果

- a 学校防災教育指導の手引を参考にカリキュラム・マネジメントの視点から家庭総合の授業において2年次生徒164名を対象とした公開授業「防災ふろしきの活用法」を10月15日に実施した。災害時における「ふろしき」の有効な活用について疑似体験することで、自助、共助のために主体的に行動する生徒を育成することができた。また、避難者・被災者の視点に立った学習を通して、日頃から防災に関心を持っておくことの重要性に気づくとともに、防災に貢献しようとする態度を身に付けることができた。



(ふろしきの様々な活用法を学ぶ)

イ 課題

- a まとめとして、自己評価等を工夫することで目的の達成度や防災意識の向上等、客観的に判断できたり理解を深めることにつながったのではないかと考えられる。

(2) 機能訓練を踏まえた実践的な避難訓練の実施

ア 成果

- a 水俣市合同避難訓練では、災害対応についての講話や熊本地震の映像視聴から、くまもと地震の教訓を再確認するとともに、これから起こるかもしれない地震とどう向き合うべきか考えることができた。

また、次の様な体験活動を行った。

地域住民との土嚢積み体験では、初体験の生徒や職員が多く、避難所や自宅でも役立つ体験（砂の入れ方、ひもの結び方、積み方）ができてよかった。また、体験を通じて土嚢に砂を満杯に入れると積むときに成形できないことを学んだ。

毛布担架の作成体験では、緊急時、物資が不足する中、代用品があれば救助に役立つ等、具体的、現実的な体験ができた。「無かったら、作れ」の精神を学ぶことができ、高校生にとって大きな成果があった。

自衛隊の軽装甲機動車、探偵用バイク、非常食（戦闘レーション）見学を通じて、日頃接することができない災害救助に関する自衛隊の方々と話ことができ貴重な経験ができた。

生徒アンケートからは、「体験活動で新たな知識が理解できた。」、「地域の人と訓練することでより真剣に取り組むことができた。」等の感想が寄せられた。

- b シェイクアウト訓練では、3つの安全行動（まず低く、頭を守り、動かない）と地震発生時の初動対応に係る知識や行動を身に付けることができた。
- c 防災主任が先進地視察研修で学んだ機能訓練の取組を参考に、本校職員による机上訓練を行った。協議する中で、

日頃気づけなかった場所にも疑問を持ち、他の職員に確認している姿が見られた。訓練前に事前の確認ができ、緊張感を持って実施することができた。



(土嚢積みの様々な活用法を学ぶ)



(救急対応の様々な活用法を学ぶ)

イ 課題

- a 水俣市合同避難訓練では、避難誘導の事前の準備不足が指摘された。職員会議で確認した内容と先生方の実際の動きが違っており、分かりやすい要項の作成と流れの共通理解が必要であった。班別の時間に活動する内容を再検討する、班分けをもっと細かく分ける、ハンドマイクの使用をするなどの反省があげられた。来年度は、今年度の反省を踏まえ、より実践的な訓練を行いたい。
- b シェイクアウト訓練は、日頃の備え等について事前学習を行う必要があった。事前学習の取組をLHRの年間計画に組み込みたい。
- c 机上でのシミュレーションではなく、実際に動きながらの機能訓練の必要性を感じた。

(3) 防災主任の資質・能力の向上と校内の連携体制の構築

ア 成果

防災主任研修、先進地視察研修で学んだ先進的な取組等を職員に報告し、防災教育等の充実について共通理解を図ることができた。

イ 課題

防災に関する校内研修を多く取り入れ、マニュアルの読み込みや体験活動を行うとともに、職員間の連絡体制を築くべきであった。

(4) PDCAサイクルに基づく、危機管理マニュアル及び学校安全計画の検証・改善

ア 成果

学校安全アドバイザーを活用した危機管理マニュアル及び学校安全計画の見直しでは、水俣高校版として実際に地震等があった場合、職員の誰が見ても、どこに何が書いてあるかすぐに確認できるマニュアル作りができた。

イ 課題

全職員が防災マニュアルの読み込み内容を把握することや活用することができるようにする。

(5) その他

ア 成果

8月には、水俣市と水俣高校との学校施設の避難所等利用に関する協定等の締結も行った。平成29年度から、防災型CS学校運営協議会を年5回行い地域や専門機関等との協力関係を深めてきた。

イ 課題

調印では、調印式の在り方を検討し、内外に対して強く印象付けるための工夫が必要であった。